

初台リハビリテーション病院

新しいリハビリ機器が導入されました

今年度、東京都地域医療構想事業の補助金を活用して新しい医療機器・リハビリ機器を導入することができましたのでご紹介いたします。膀胱尿量測定器5台、嚥下内視鏡1台、エクササイズミラー3台、ディジョックボード1台、振動刺激エクササイズ機器1台、言語訓練機器「言語くん」1台です。年度末にかけて透視装置1台、チルトテーブル2台の導入も予定しております。今後もリハ機器等の充実を図り医療サービスの向上に努めてまいります。



船橋市立リハビリテーション病院

紹介動画の放送を開始しました!

船橋市立リハビリテーション病院では、船橋市役所本庁舎市民ロビー、エレベーターホールとFACEビル内駅前総合窓口のモニターで当院の紹介動画の放送を開始しました。市役所で手続きの待ち時間などに視聴いただくことで、より多くの地域住民の方に当院を知っていただきたと考えております。これからも地域とともに患者さまが輝いて生活できることを目指して、質の高いリハビリテーションを提供いたします。



船橋市立リハビリセンター

急変対応勉強会

寒くなって来ると、体調を崩すことも多くなりますね。当センターでは、医療安全委員会が中心になって全職員が参加し、急変対応の勉強会を行いました。AEDや人形も使用し、本番さながらに急変が発生したことを想定しての訓練です。事前にスライドや動画で発生時の対応について確認してから行いましたが、実践すると様々な気づき、具体的な質問・意見も上がり、とても有意義な勉強会でした。



在宅総合ケアセンター元浅草

言語聴覚療法(STリハ)の利用者さまによる【実りの会】

今回で9回目を迎えるSTリハの利用者さまによる【実りの会】は、コロナ禍のため一堂に会する交流会は今回も見送り、作品展示のみの開催と致しました。作品のテーマは【万華鏡 光 あなたが見たい風景は何ですか?】70名の利用者さまの「見たい風景」を発表していただき、「富士山」や「自由に歩く自分」などお互いの目標を共有することで意欲を高め合いました。同時に作成した切り絵を用いた万華鏡は、時間の経過とともに変化する【光】を反映して美しく輝いています。



在宅総合ケアセンター成城

世田谷児童作品展を開催しました!

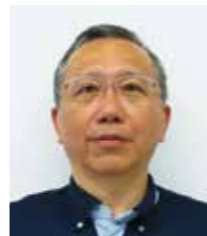
当院では、今年度も世田谷区の児童作品を一部お借りし、1階受付エリアにて展示させて頂きました。子ども達が自然や環境、社会との関わりを通して、興味や関心をもったことを、感性を働かせながら表現された絵画は、非常に素晴らしく、大人顔負けの作品ばかりです。ご来院された利用者さま、ご家族さまからも例年大変ご好評を頂いております。今後も機会がありましたら継続してまいりますので、是非楽しみにして頂ければと思います。



kisei-kai
情報誌



～令和4年 年頭挨拶 事務責任者より～



初台リハビリテーション病院 早川部長

新年あけましておめでとうございます。昨年も引き続き新型コロナウイルスにより、長らく緊急事態宣言が続き、年の後半には、社会活動の再開と明るい兆しも見られつつありますが、気が付けばコロナ禍で常識とされていたものがいろいろ変わりました。病院運営についても、「変えるべきは変え(時代の要請をしっかりと認識する)、守るべきは守る(法人の理念に基づき、患者さまにより良いリハビリを提供する)」を念頭にこれからも取り組んでまいります。

初台では昨年6床の増床工事を行い、今年の一部のお部屋で左右どちらの麻痺にも対応できる改修工事も検討しています。リハビリを必要とする患者さまを急性期病院からより早期に受入れるべく、今年はその本格運用の年となります。職員一丸となって取り組んでまいりますので、本年もどうぞよろしくお願いいたします。



在宅総合リハケアセンター成城 高橋部長

地域の皆さまの温かいご支援のもと、今年も無事に新年を迎えることができました。昨年も引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大により不安と混乱に陥った年となりました。そんな中でも、病院機能を維持し、院内感染やクラスター発生を予防する様々な感染対策を講じてまいりました。患者さまやご家族さまをはじめ来院される多くの方々にご不便をおかけすることもありましたが、一年を通し、安定してサービスを提供することができました。これも偏に皆さまのご理解ご協力によるものと改めて感謝申し上げます。

まだまだ出口が見通せない状況下ではありますが、新たな成長を見つけ、工夫を重ね、より良い医療の提供と地域への貢献を図ってまいります。いつかコロナ禍を抜け出したとき、さらに成長した病院となれるよう職員一同力を合わせて進んでまいります。



船橋市立リハビリテーション病院 加納部長

新年あけましておめでとうございます。2021年を簡単に振り返ると、1月7日に1都3県の緊急事態宣言が発出。発出、延長、解除を繰り返しながら、コロナワクチン接種が開始。夏に東京オリンピック開催の一方でデルタ株が急速に拡大、新規感染者ピークは8月20日の1,777人。その後減少に転じ岸田内閣発足の10月4日には新規感染者42人まで減少も、オミクロン株を警戒しながら1年が終わる。と、常に新型コロナウイルスを意識した1年間は私にはあっという間でした。さて2022年。船橋市には船橋市立リハビリテーション病院・船橋市リハビリセンターと2つの拠点があります。昨年逝去した石川誠会長の遺志を継ぎ、職員一同力を合わせリハビリテーションサービスの提供に邁進し、患者さま・ご家族さま・市民の皆さまに評価して頂けるよう努力してまいります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



在宅総合リハケアセンター元浅草 大垣部長

謹んで新春のお慶びを申し上げます。一昨年から猛威を振るったコロナが、昨年も第〇波と、幾度となく襲来してきました。本来ならば、多くの方々、ご家族やご友人達と、もっと多くの時間を過ごせていたのかもしれませんが。私達職員も、コロナの事に注意する一方で、もっと、皆さま達と、何気ない会話や、体調の事をお話できていたのかもしれませんが。そんな「ゆとり」がなかったと振り返った昨年でした。

今年は、患者さまご家族さまの声がもっと聞ける1年にしたいと思っています。皆さまが言いたい事はなんだろうか?直接は言えないけど、考えている事は、なんだろうか?そんな事をもっと考えて、運営していきたいと考えています。「ゆとり」とは、窮屈ではない状態です。心や気持ちに「ゆとり」をもって、今年も、皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。

季刊情報誌「輝NET」 編集・発行 医療法人社団 輝生会 本部/〒110-0015 東京都台東区東上野1-28-9 5F <https://www.kiseikai-reha.com>

初台リハビリテーション病院 〒151-0071 東京都渋谷区本町3-53-3 TEL.03-5365-8500 <https://www.hatsudai-reha.or.jp>
 船橋市立リハビリテーション病院 〒273-0866 千葉県船橋市夏見台4-26-1 TEL.047-439-1200 <https://www.funabashi-reha.com>
 船橋市リハビリセンター 〒274-0822 千葉県船橋市飯山満町2-519-3 TEL.047-468-2001 <https://www.funabashi-rehacen.com>
 在宅総合ケアセンター元浅草 〒111-0041 東京都台東区元浅草1-6-17 TEL.03-5828-8031 <https://www.motoasakusa-reha.com>
 在宅総合ケアセンター成城 〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷3-8-7 TEL.03-5429-2292 <https://www.seijo-reha.com>

本誌へのご意見ご要望はメールにてお寄せください。 contact@kiseikai-reha.com

輝生会の基本理念と方針 ■「人間の尊厳」の保持 ■「地域リハビリテーション」の推進 ■「情報」の開示
 ■「主体性・自己決定権」の尊重 ■「ノーマライゼーション」の実現

輝生会における患者さまの権利 ■ 人権を尊重される権利 ■ 最善の医療を受ける権利 ■ 自らの意思で選択・決定する権利
 ■ 自分の診療の情報や記録を知り、求める権利 ■ プライバシーの保護を求める権利

初台と成城の2拠点における増床のお知らせ

初台リハビリテーション病院は、このたび173床から179床へ増床工事を行いました。また、在宅総合ケアセンター成城でも、2月に26床から30床へ増床予定です。それぞれの取り組みをお知らせします。

【急性期の在院日数短縮化と東京都区西南部の病床不足】

急性期医療における在院日数の短縮化の動きが進んでいます。急性期医療を経過した脳血管疾患や大腿骨頸部骨折等の患者さまに対し、ADLの向上や在宅復帰を目的とした回復期リハビリテーション機能は、依然として整備が必要な状況にあります。一方、東京都より「東京都保健医療計画上の既存病床数の過不足状況」が発表され、2020年4月1日現在、初台リハビリテーション病院・在宅総合ケアセンター成城のある区西南部において、58床(2021年4月1日現在では94床)の不足が示されました。



初台リハビリテーション病院の取り組み

より多くの方へ回復期リハビリテーションの提供を

初台リハビリテーション病院ではかねてより、室料差額のかからない4人室が常時入院待ちであることが課題であり、病床を増やす検討を始めていましたが、急性期からの患者さまの早期受け入れを実現する為に、また東京都の病床不足の発表も受け、東京都「令和2年度の療養病床及び一般病床の配分」へ手上げを行いました。

具体的には、3階、4階、5階の特別室1及び特別室2を個室から2人室へ変更し、病床数を173床から179床(個室47室、2人室6室、4人室30室)へ、6床を増床申請しました。新型コロナウイルス発生にそなえて個室を確保する必要があった為、増床工事は当初予定より4カ月遅れの11月から開始、先日無事に完了しました。工事期間中、入院中の患者さま・ご家族さまには、ご迷惑をおかけしながらも多大なご協力を頂き、この場をお借りしてお礼申し上げます。2人室は工夫をしながら、本年より本格運用してまいります。また、一部の4人室では今後、家具を移動することにより左右の麻痺側両方に対応できる改修も検討しており、引き続き患者さまの早期受け入れに繋げ、地域医療へ貢献してまいります。



在宅総合ケアセンター成城の取り組み

回復期リハビリテーションから在宅サービスの充実を

在宅総合ケアセンター成城では、外来・入院・訪問診療、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション、ケアプランサービス、訪問看護ステーションを実施し、サービス間・職種間の垣根を越え365日24時間在宅を支援するチームアプローチを展開しています。

世田谷区内の回復期リハビリテーション病床数は総病床数325床で、人口10万人あたりの病床数は31.8床と、全国・東京都の平均を下回ります。その為、同センター内の成城リハケア病院において2021年2月より病床機能を回復期リハビリテーション病棟へ転換し、さらに2022年2月には4床を増床し30床へ拡大することになりました。

早期に回復期リハビリテーション病棟への転院を実施し、回復期リハビリテーション病棟から在宅等へ退院した患者さまが機能低下を招かぬよう、適切な生活期リハビリテーションの提供を兼ね備えた、シームレスなリハビリテーション医療を実践してまいります。

活動紹介 ～渋谷区地域リハビリテーション活動支援事業～

1. 介護予防・フレイル予防推進員について

東京都に、介護予防とフレイル予防の観点を踏まえ、通いの場等の機能強化を推進する専門職を、介護予防・フレイル予防推進員として区市町村に配置する事業があります。フレイルとは、健康な状態と要介護の中間にある、要介護になるリスクの高い「虚弱な状態」のことです。また通いの場とは、高齢者の趣味のサークルやサロン・体操グループなどで、リハビリテーション専門職等がこの通いの場の運営に入っていきましょう、というものです。渋谷区では、介護予防・日常生活支援総合事業のうち「地域リハビリテーション活動支援事業」として紹介されており、今年度から渋谷区より依頼を受け、私と作業療法士の久保木が担うことになりました。



2. 輝生会での経験を生かした活動に

病院から地域に出て思うのは、専門職として様々な経験が活動に生きてくるということです。例えばフレイル予防の話をするのにも、頭でわかっているだけでなく、専門職として経験と根拠を踏まえて「運動するのが大事です」と言えることが大切だと実感しています。また、私は輝生会でずっと他職種協働の環境にいました。地域の様々な立場の人たちと建設的な意見交換を行いながら事業を形にしていくことに、この経験が生きています。背景の異なる人達と一緒に仕事をすることが大きな成果に結びつくということ、身をもって知っていますので、これは推進員活動にプラスとなっていると思います。

渋谷区には「ちがいをちからに変える街」というスローガンがあり、これは我々が目指している医療と通じます。今後推進員として区の要望に応じていくこと、渋谷区民の皆さまの健康増進に寄与することを目指していきます。

2. 実際に何をするのか

大きく分けると二つあります。①通いの場を拡大すること。これは本来「住民の方」が主語になるべきもので、推進員には、通いの場の立ち上げ・継続のために、専門職として後押しをしていくことが求められています。②フレイル予防を広めること。介護予防へのリハビリテーション専門職のかかりとして体操の先生をイメージする方も多いかもしれませんが、推進員は、既にある通いの場や区が主催する介護予防教室の中に、フレイル予防の観点で「こんな事もやるといいですよ」ということを働きかける役割となります。

また、今は困っていない健康で元気な高齢者の方々に、フレイルに備えるよう啓発していくことも、推進員の活動です。事業を開始してから数か月の間に、様々な通いの場や介護予防教室に参加し、活動内容のご相談やフレイル予防のお話、体操方法や体力測定方法の指導などを行ってきました。



初台リハビリテーション病院 生活期支援部マネージャー 理学療法士 御代川英己

